

# NEW GENERATION

ニュージェネレーション

縁あってロータリーに触れた若者たち。彼らはいま、何を思い、どんなことに挑戦しているのでしょうか。

## ピアニストとして生きる

ローテックス 山本 絵理

ピアニストとは何かを意識し始めたのは、青少年交換学生としてハンガリーへ渡り、リスト音楽院の教授の元で学んだことがきっかけです。幸運にも個人レッスンを受けることができましたが、それが闘いの日々の始まり

でした。高校でも音楽中心の授業でしたが、お稽古として続けていたピアノを、音楽家として世に出ていくピアノにすることは、想像を超える厳し



さでした。教授のレッスンは、こんなにも恐ろしい鬼がこの世にいるのかと思うほどでしたし、リスト音楽院の学生のレベルは、今まで出会った音楽仲間とは全くと言っていいほど違いました。

このような大きな違いを実感したにもかかわらず、17歳の時、高校の現地の音楽の先生に背中を押してもらい、ピアニストとして世に出ていく決意をしました。リスト音楽院にはギリギリで合格しましたが、修士課程を首席で卒業するまで、切磋琢磨する音楽仲間と共に、日々音楽とピアノに明け暮れました。

今思い返すと、教授の鬼のような指導は、私をプロのピアニストにするために、技術や音楽だけでなく、精神や心を教えてくれたのだと確信しています。ピアノで勝負するために今、ロンドンでさらに音楽魂を磨き、日々挑戦しています。

ロンドン在住。2010 - 11年度第2580地区青少年交換学生としてハンガリー・ブダペストへ派遣。2017年リスト音楽院修士課程クラシックピアノ科修了。世界中で演奏活動中。

## 夢はでっかく、RI会長

ローターアクター 吉岡 毅

高校生の時、友達に誘われてインターアクトクラブに入りました。正直奉仕活動に興味はありませんでした。しかし2010年、2年生の時に開催された「平城遷都1300年祭」のボランティアを通じて、会場の盛り上がりを感じたり、人とのつながりができたりしたことで、今まで「奈良には何もなし」と愛着のなかった自分の街に初めて興味を持ちました。大学生になりローターアクトクラブに入り、奈良の伝統行事を知り、人とのつながりができ、奈良が好きになりました。2016年大学4年生の時に春日大社第60次式年造替奉祝行事の手伝いをしたことがきっかけで、「奈良に関わる仕事をしたい!」と、春日大社に奉職しました。

神社では、渉外部で奉納演奏の段取りや当日運営などの行事に従事しながら、普段は参拝案内を担当していま



す。おはらいの<sup>はらえことば</sup>祓詞の意味や、神主や<sup>みかんこ</sup>御巫の袴の色の違いなど、奉職前に疑問に思っていたことを神主から教わり、それを参拝者に披露しています。神主ではない私だからこそできることを考えてご

奉仕するよう心がけています。

将来はロータリアンになり、万博やオリンピックのようなワクワクすることを奈良で企画したいです。夢は国際ロータリー(RI)会長になって世界に奈良を発信し、新しい世代の人をロータリーに導くことです。

奈良県出身。(宗)春日大社職員。奈良市立一条高校IAC元会員。奈良RAC所属。ライラリアン。ロータリーフェローズ2650会長。奈良市在住。趣味はギター、カメラ撮影。

●皆さんの周りの若い人をご紹介ください! ロータリーのプログラムに参加したことのある10~30代までの若者(現役、学友どちらも可)を『友』編集部にご推薦ください。記入用紙は『友』ウェブサイト [www.rotary-no-tomo.jp](http://www.rotary-no-tomo.jp) からダウンロードできます。